

高橋勅徳（首都大学東京大学院社会科学研究科准教授）

曾根秀一（帝塚山大学経営学部専任講師）

建築業界における企業家活動

－株式会社千金堂による

ローコスト住宅販売事業構築の事例分析－

イノベーション・マネジメント（法政大学） No.12

pp.67～82 2015.3.

本論文は、関係論的転回における秩序構築の主体としての企業家という新たな理論視座に基づき、一般住宅業界に新たな秩序を構築した株式会社千金堂の事例について分析的記述を行ったものである。

分析対象である千金堂は、2008年に創業し、1,000万円のワンプライス料金で一般住宅の設計・施工を請け負う新興ハウスメーカーである。活動領域としては、東日本を中心にフランチャイズを展開し、2012年現在、加盟店が91店舗で業界第5位に位置している。

「2. レビュー：建築業界における戦略転換と企業家活動」では、2000年代から散見される中小建築会社や工務店の多角化及び新規事業開発に関するレビューを行っている。レビューの結果、技術力ではなく既存の業界構造からいかに脱却したかについて、具体的な行為を捉える必要があると指摘し、秩序構築主体としての企業家という理論的視座を用いて分析することを提示している。

「3. 事例：株式会社千金堂」では、建築業界の産業構造、千金堂が創業された経緯、千金堂が千金堂デパートを通じて、工務店、建材メーカー・建材卸、顧客を大手ハウスメーカーから切り離し、ローコスト住宅を販売するという新たな秩序を構築した具体的行為が記述されている。

「4. おわりに：発見事実の整理と理論的貢献」では、2つの発見事実が示されている。

第一の発見事実は、建築業界におけるハウスメーカーを頂点とした分業構造に対して千金堂が千金堂デパートを構築することで、建材メーカー、建材卸、工務店、顧客を千金堂の新事業に取り込むことに成功したことである。この発見事実は、進化論アプローチにおいてブラックボックス化されてきた、企業家の行動メカニズムに新たな理解をもたらすものであると示されている。また、秩序構築主体としての企業家という分析視角は、関係構造の中で生じる利益／不利益という視座から企業家の動機を説明しうるだけでなく、秩序を構成する主体が抱く利害の再構築という視点から企業家活動が了承可能な形で記述しうるということである。

第二の発見事実は、千金堂がフランチャイズの加盟店に対して、導入研修、千金堂大学、千金堂の構築する秩序に適応を促す各種研修と合わせて、加盟店に千金堂の本社機能を担わせ、関係構造をボランティアに維持する状況を構築したことであるとしている。この発見事実は、企業家が秩序を構成する各主体が自発的に秩序の維持に参加するよう働きかけるという、進化論的アプローチが見落としてきた新たな行動類型を提示するものであるとしている。

このような分析と発見事実は、今後、建設・建築業界を経営学の研究対象として取り上げることや、秩序構築主体としての企業家研究において極めて重要な研究蓄積として評価されるべきであろう。

一方で、本論文の議論がどこまで拡張して展開できるかについては検討してみる必要がある。1社のみの事例分析に限らず、多くの建設・建築業者にまで一般化しうるだろうか。今後の課

題としていただきたい。

(香川大学経済学部准教授 大杉奉代)